

2021

March

令和三年

AP

100 Years and Beyond

COMMUNICATION

株式会社アピックス 社外報



特集

これからの企業に求められるミッション

これからの企業に求められるミッション



コロナ禍での CSR —— 志プロジェクト大阪

大阪経済大学経営学部・准教授 杉本 俊介

株式会社アピックス様と本学・大阪経済大学は協働で、富士ゼロックスを主幹とする地域人材育成というCSR活動として「志プロジェクト大阪」を展開して参りました。現在のコロナ禍において、多くの企業が自らの社会的責任を自覚しCSRを模索しています。

私が専門とするビジネス倫理学では最近、『「かつ」(and)の力』という本が出版されました。ステークホルダーという言葉に世に広めたR・エドワード・フリーマン教授たちの本です。教授たちによれば、私たちは「あれかこれか」という思考に縛られがちです。

儲けか会社の使命か。株主かステークホルダーか。マーケットか社会か。経済性か人間性か。前者を手に入れるため後者(下線部)を手放すビジネスには、倫理がありません。だからといって、後者(下線部)だけではビジネスは成り立ちません。ビジネス倫理学は「あれかこれか」という前提そのものを否定します。儲けかつ(and)会社の使命。株主かつ(and)ステークホルダー。マーケットかつ(and)社会。経済性かつ(and)人間性。ビジネスかつ(and)倫理。どちらも追求できる。これが「かつ」(and)の力です。

現在のコロナ禍においても、私たちは「あれかこれか」と考えがちです。人命か経済か。自粛か再開か。監視かプライバシーか。そうでなく、人命かつ経済、自粛かつ再開、監視かつプライバシー、どちらも追求していく姿勢が求められます。

志プロジェクト大阪では、参加企業様にこうした姿勢が伺えました。「臨時休業」と書くだけではつまらない。「前向きにやってるで～」というお客様へのメッセージも込めてポスターを打ち出す。新たなビジネスチャンスを生み出すためインターネットを一から勉強している。非常事態であってもPDCAサイクルを繰り返してお客様の価値を確認して今できることをする。こうした姿勢を貫くことが、CSR本来の姿ではないでしょうか。

THE POWER OF AND

- | | |
|-------------------|-------------------------------|
| ・ 儲け か 企業の使命 か | ・ 儲け かつ (and) 企業の使命 |
| ・ 株主 か ステークホルダー か | ・ 株主 かつ (and) ステークホルダー |
| ・ マーケット か 社会 か | ・ マーケット かつ (and) 社会 |
| ・ 経済性 か 人間性 か | ・ 経済性 かつ (and) 人間性 |
| ・ ビジネス か 倫理 か | ・ ビジネス かつ (and) 倫理 |

あれかこれかの思考

かつ (and) の思考



目に見える変化と見えない変化

創業100年の年であった2020年、「コロナ禍」によって世界中のビジネス環境は激変しました。

マイクロソフトのサティア・ナデラCEOが「2年分に相当するデジタル変革が2カ月で起こるのを見た」と語ったように日本においても押印の廃止、ペーパーレス化、DX推進、リカーリング、テレワーク等々、組織体制や事業プロセスの戦略が大きく舵を切られ目に見える変化が起こっています。ただこれらは大きな変化ではありません。



コロナ禍と発明家

大阪経済大学経営学部講師 稲岡 大志



哲学とビジネスはほとんど同じことをやっていると私は大学の授業で話することがあります。学生たちはきょんとしています。哲学者もビジネス・パーソンも疑ったり、問いを立てたり、概念をつくったりするという共通点がある、と説明すると、学生たちもなんとなくわかった気になってくれるようです。

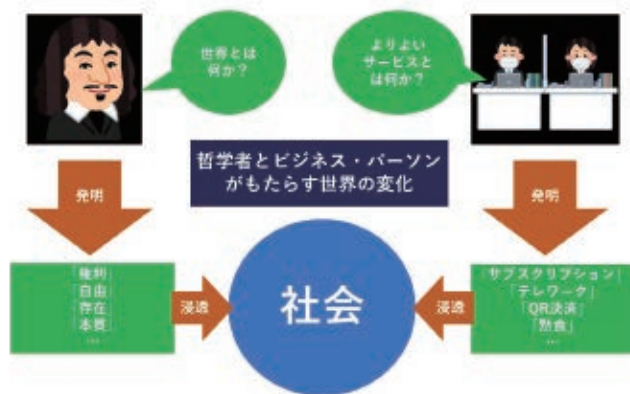
哲学者は発明家です。といっても、哲学者が発明するのは、スマートフォンの新機種や画期的な医薬品などではなく、「自由」や「権利」や「存在」や「本質」といった概念です。こうした概念は私たちの社会や日常生活の奥深くに入り込んでいるので、それらが無い社会がどのようなものになるのか、想像するのはとても難しいでしょう。哲学者が発明してきた概念は私たちの社会の骨格部分をなしているのです。

そして、ビジネスという営みにもまた、発明的側面があります。たとえば、一定の料金を支払うことで製品やサービスが使い放題となるビジネスモデルを指す「サブスクリプション」はこうした新概念の一例です。いわゆる「コロナ禍」でも、新しい概念が生まれています。「ソーシャル・ディスタンス」や「3密」や「自粛要請」といった、行政主導で生み出されたものもあれば、新しい働き方を示す「リモートワーク」や、飲食店にて飛沫の拡散を避けるために一人で黙って食事をするを推奨する「黙食」など、ビジネスの現場で生み出されたものもあります。

こうした概念の多くは、コロナ禍というきわめて苦しい現状をどうにか打開するために、いわば「一時しのぎ」として生み

出されたものであると考えることもできます。しかし、こうした概念が私たちの生活に染み込みつつあることもまた確かではないでしょうか。

ビジネスの現場で生み出された概念は私たちの社会の輪郭を少しずつ変えていくのです(たとえば、観光地でリモートワークをする「ワーケーション」と呼ばれる新しい働き方は、「労働」と「余暇」という概念の捉え方を塗り替える可能性があります)。こうした観点から改めて企業の社会的責任を考えることも重要であるように思われます。



ますが、今回のコロナ禍により突発した事ではなく次世代技術の勃興や市場ポジショニングの複雑性、新興国の脅威といったこれまで存在していた脅威やリスクが一気に噴出した結果なのだと痛感しています。もう1つ「目に見えない」変化も確実に起きているのではないのでしょうか。経験した事のないパンデミックが世界を覆い、昨日までの延長線上に未来は描けなくなりました。過去の価値観を見直さざるを得ない状況となり、世界中の人々は「我々は何のために存在しているのか」という存在意義を改めて問い直しているように感じています。

今号では、志プロジェクトを推進頂いている大阪経済大学の先生方に「これからの企業とは」をテーマにご寄稿頂きました。私たち中小企業が踏み出せる1歩は小さなものではありませんが、今一度当社の存在価値を問い直し次世代へ向けて歩み続けたいと思っています。

事業企画室 執行役員 重松えみり



(左から) 新川、アリアさん、河村

「小さなCSR活動」のご紹介

社長

コラム

代表取締役社長 河村 武敏

昨年末から年初にかけて、今年もキュートな卓上カレンダーを作成し、お客様へお届けいたしました。このカレンダーは、経済産業省からの委託事業「国際化促進インターンシップ事業」で2019年の秋に来日し、弊社事業企画室で海外人材インターンシップとして共に働いた「アリア・アンガサリ」（インドネシア）さんに、昨年に続き今年もデザインを依頼し作成した作品です。

2020年版カレンダーは、彼女のインターンシップのアウトプット作品として作成され、テーマは「海外からみた日本の良さや印象のデザイン」です。

次の英文が2020年版カレンダーのタイトルです。

“This calendar was designed during internship in November 2019”

お客様にお配りし、ユニークな色使いやデザインが特に女性に好評でした。

昨年はコロナにより海外との交流は一時的にストップせざるを得ない状況になりましたが、今できる海外人材との交流をしようとの想いで、インドネシア在住の彼女に改めてプロとしてデザインをネット経由で依頼し、2021年版カレンダーは「海外から見た日本の食文化」をテーマにユニークなデザインに仕上げてくださいました。

次の英文が2021年版カレンダーのタイトルです。

“The illustration on this calendar are based on the seasonal dishes in Japan”

今年は新しく導入したメタリックトナーによるデジタルプリントを活かした仕上がりとなり、弊社のサンプル作品としてお客様に楽しんでいただくことになり、大変好評を博しました。

2017年頃から海外人材の社内登用にトライし、今では東京と大阪に1名ずつ海外留学生の若い営業パーソンが活躍しています。コロナ禍の中ではありますが、長い目で見ると今後も人口減少化の日本において、グローバル社会における我々の果たすべき役割として、海外人材との交流は重要な接点と考えています。

ウィズコロナ、アフターコロナの中で改めてSDGsが注目されていますが、弊社も身の丈の「小さなCSR活動」として、海外人材とのインターンシップや、地域人材交流インターンシップ「志プロジェクト」など継続していこうと考えています。



アリア アンガサリさん (2019)

※ 2021年卓上カレンダーご購入の方は、弊社営業担当へお声がけくださるか、事業企画室 新川までご連絡いただければ、ご用意させていただきます。

事業企画室 新川 由樹
yniigawa@apix.co.jp



株式会社アピックス

本社 〒541-0059 大阪市中央区博労町1-2-2
TEL:06-6271-7291 FAX:06-6271-7296

東京支店 〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-4-14 OZAWAビル3F E-mail info@apix.co.jp
TEL:03-5879-7291 FAX:03-5879-7296 URL http://www.apix.co.jp